（様式3）　平成　21　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1290200029		
法人名	医療法人社団　千葉医心会		
事業所名	グループホーム　よされ		
所在地	千葉市花見川区宇那谷町123－13		
自己評価作成日	平成21年11月16日	評価結果市町村受理日	平成22年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1－5－6－1307
訪問調査日	平成21年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の方々が穏やかに家庭的な雰囲気の中で生活できるよう日々頑張っています。医療法人ということもあり医師や看護師との連絡がスムーズに行え健康面の管理も充実しています。また法人には、さまざまな介護施設があり、その人の希望や身体状況にあった場所を紹介できます。地域のお祭りや敬老会に参加をし、少しずつではありますが地域に溶け込めるよう努力したいと思います。利用者に対して地元で取れた美味しいお米と野菜、柏の市場から仕入れた新鮮な食材を食べて頂き、お元気で過ごされますように配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

千葉市郊外の自然が残っている閑静な住宅街に立地し、環境に非常に恵まれたホームです。このグループホームは、利用者・家族の負担軽減のため家賃・食費を安くしていますが、サービスの提供面では、できるだけ本人の意思を尊重し、自立支援を目標に職員が見守るように配慮しています。また、利用者のため、地元でとれる美味しいお米、お茶を提供し、献立には利用者の故郷料理などを織りこみ、利用者に大変喜ばれています。さらに、母体が医療法人であるため、医師、看護師と連携し、健康面・医療面に力を入れています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取　り　組　み　の　成　果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取　り　組　み　の　成　果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを盛り込んだ理念を、運営推進会議や職員会議の時に口頭説明し、掲示物等で掲げている。	理念は、「家庭的な雰囲気の中で、協力しあって生活する」を掲げています。折にふれて地域に根ざしたグループホームの主旨は、管理者の考えや職員のサービスなどで窺がえますが、まだ十分とはいえない状況です。	管理者、職員で話し合い、従来の理念にグループホームの主旨である「地域に根ざす」を織りこみ、理念の共有と実践に努めることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等に行って日常的な付き合いが出来るように努力はしている。地域の行事に少しずつ参加できている。	町内会に入会し、町内会主催の行事(夏祭り、敬老会)には積極的に参加しています。散歩時にご近所と挨拶したり、地域ボランティア(大正琴)を受け入れたり、地域チャリティーコンサートに参加しています。現在は、小学校との交流を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に少しずつ参加できている。民生委員や自治会長に相談し交流をもっと深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行なっている取り組み等の説明をし、当ホームを理解して頂けたとは思う。今後も色々意見をもらいサービス向上に努めたい。	10月に、町内会長、民生委員、関連施設関係者、利用者、家族、管理者、職員で開催しています。議題は、施設の活動報告が主で、時節柄インフルエンザ対策も取り上げています。只、活発な意見交換がなされているとは言えない状況です。	年数回定期的に、行政または地域包括支援センター等の出席を得て、開催する事が望まれます。議題には、「外部評価の報告と改善状況」等サービスの向上につながる意見交換が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GHで起きた事故等を市の担当者と報告し話し合い、事故の予防に努めている。	市の担当者には、事故等を報告し、話し合い、事故の予防に努めています。介護相談員は、今年は申し込みしましたが抽選にはずれ、訪問を受けることができませんでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修等参加し、施設でも1人ひとりの身体拘束をしない工夫について職員間で話し合っている。	管理者、職員は、社内研修、外部研修を受け、身体拘束の禁止になる行為を正しく理解しています。玄関は日中鍵をかけておらず、人の出入りの際はチャイムがなるようにしています。夜は安全面から施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、基礎過程研修、専門課程研修を受けた職員がいる。職員と日々話し合って虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある関係者とは話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、利用者の意見、不満、苦情を日常的に聞き、対応に努めている。グループホーム新聞を発行したり、面会時等で定期的に報告している。	職員は、利用者からは普段のサービス提供時に要望を聞き、家族からは訪問時や電話で連絡する時に意見、要望を聞いたり、運営推進会議で利用者、家族の意見、要望を聞き、運営に反映するように努めています。	管理者や職員には家族が直接言い難いこともありますので、ホーム独自のアンケートなどを実施し、家族の意見、要望を聞き、運営に反映することが期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見交換し管理者会議等で話合い、運営に反映している。	月1回の職員会議で、管理者は職員の意見を聞き、運営に反映するようにしています。又今回の自己評価票作成時には、職員の意見を聞いてまとめています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の報告を受け勤務状況を把握し、給与や労働時間等、働きやすい職場の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当を決めて学習会を行っている。その他にも法人内外の研修がある場合は参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に3回、他のGH管理者との話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学時に家族と一緒に来訪してもらい、話を聴く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談やホーム見学時に話しを聞く機会を作り、受けとめられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々職員と共に「一方的な介護ではなく、出来ない事をお手伝いする、入居者主体のケア」をしていけるよう心掛け、実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加してもらい、一緒に楽しんでもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙(年賀状)や電話等で連絡が取れるように努めている。	月命日に家族と墓参りに出かけたり、食堂にある電話で家族に連絡したり、年賀状を書くための手伝いなど、本人らしい生活を送れるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットで区切らず自由に交流をもてるようにしたり、食事の席を考慮したりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移った先の施設に面会に行ったり、必要に応じて家族と連絡を取っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、更なる把握に努めている。	利用者の生活歴、家族からの聞き取りを含め、本人の日常の会話や表情、関心を示した事などから、どのように暮したいかを日々汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から話を聞き、入居者情報を作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を取り入れ、更なる把握に努めている。その他に大きな変化があった場合は入居者情報を更新したり、日々の現状をケース記録に記入して把握できるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報交換にて、随時状態の把握に努めながら、全体の状況は、ケースカンフアレンスにて対応を話し合い、介護計画に反映している	本人の状態、家族の意見をふまえて月の目標を立て、介護計画に反映しています。臥床の長い方に声かけを多くし、動く機会を作って刺激を与えるなど、実践したことを管理日誌に記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はケース記録に日々変化を記録し、介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力関係機関等を活かして支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう支援している。	医療法人としてのメリットを活かし、認知症の研修を受けた医師が迅速に対応しています。情報提供もパソコンでスムーズに行なわれ、必要時には協力医の受診が可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師を週１回派遣してもらい、日常的に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と十分に話をし、情報交換や相談に努め、備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族において予め方針を聞き、病状の変化ある時は、その都度説明し家族の意志に沿うように柔軟な対応をしている。	重度化や終末期のあり方については、家族と充分話し合い、納得の得られる方向で対応しており、書面で同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体であるクリニックに連絡、すぐにDrの指示を受ける体制は出来ており、また職員においては、学習会等で勉強しており慌てず対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、指示のもとに定期的に訓練を実施している。	6月に職員と利用者だけの所内訓練を実施しています。地域の消火訓練にも積極的に参加しています。消火器、火災報知器、煙・熱探知器の設置や緊急連絡先、対応表の掲示、非常口の明示がされています。又備蓄がされています。	防火訓練は、年2回、内1回は消防署を呼んだ訓練実施が望まれます。その際救命救急措置の講習会を開き地域の方にも声をかけ、火災時等に協力を得られるようにする事が望まれます。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	センター方式を取り入れ、更なる把握に努めている。	プライバシーを守るための学習会を開き、職員の口調や利用者の呼び方（～さん）、居室は中から施錠できるようになっているなど、人格の尊重を日々心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居時に本人や家族から話を聞き、入居者情報を作成し把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を取り入れ、更なる把握に努めている。その他に大きな変化があった場合は入居者情報を更新したり、日々の現状をケース記録に記入して把握できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の情報交換にて、随時状態の把握に努めながら、全体の状況は、ケースカンフアレンスにて対応を話し合い、介護計画に反映している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員はケース記録に日々変化を記録し、介護計画の見直しに努めております。	食事の下ごしらえ、テーブルを拭く、片付けをするなど、出来ることを職員と共に行なっています。週に1回自由献立の日があり、利用者の希望を聞いて、きりたんぽ鍋など郷土料理がメニューにのぼり、利用者に大変喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力関係機関等を活かして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて協力しながら支援している。		

<table>
<tr><th rowspan="2">自己</th><th rowspan="2">外部</th><th rowspan="2">項　目</th><th>自己評価</th><th colspan="2">外部評価</th></tr>
<tr><th>実践状況</th><th>実践状況</th><th>次のステップに向けて期待したい内容</th></tr>
<tr><td>43</td><td>(16)</td><td>○排泄の自立支援
排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</td><td>適切な医療が受けられるよう支援している。</td><td>利用者の排泄パターンを把握し、声かけをしたり、トイレ誘導するなど、一人一人の状態に合わせて対応しています。</td><td></td></tr>
<tr><td>44</td><td></td><td>○便秘の予防と対応
便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</td><td>訪問看護師を週1回派遣してもらい、日常的に支援している。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>45</td><td>(17)</td><td>○入浴を楽しむことができる支援
一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</td><td>家族と十分に話をし、情報交換や相談に努め、備えている。</td><td>3日に1回、1日3人のペースで入浴していますが必要な場合はいつでも入れる状態で、好きな方は毎日入っています。拒否のある方には、言葉かけを工夫して気持ちよく入浴できるよう配慮しています。</td><td></td></tr>
<tr><td>46</td><td></td><td>○安眠や休息の支援
一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</td><td>本人・家族において予め方針を聞き、病状の変化ある時は、その都度説明し家族の意志に沿うように柔軟な対応をしている。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>47</td><td></td><td>○服薬支援
一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</td><td>母体であるクリニックに連絡、すぐにDrの指示を受ける体制は出来ており、また職員においては、学習会等で勉強しており慌てず対応出来る様にしている。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>48</td><td></td><td>○役割、楽しみごとの支援
張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</td><td>防火管理者を配置し、指示のもとに定期的に訓練を実施している。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>49</td><td>(18)</td><td>○日常的な外出支援
一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</td><td>一日数回一人で散歩、職員と買い物に出かけたり又、家族とお墓参り等に行かれたりしています。</td><td>近くのコンビニに買い物に行ったり、車で食材の調達に同行することもあります。「散歩」という言葉に、身構えてしまう方には、「仏壇のお花を摘みに行きましょう」などと、利用者の心に添った言葉かけをし、外出を支援しています。</td><td></td></tr>
</table>

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し状況に合わせて、買い物をされたりしてお金を使う喜びを感じてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に何時でも架けられる電話があり、職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日と朝の空気の定期的な入れ変えは、毎日行い玄関・食堂等には季節感のあるお花を飾り生活感の工夫をしている。	リビング・食堂は、日当たりも良く清潔で、季節の花が飾られ、利用者が快適に過ごせるようにされています。時節がら、インフルエンザ対策のための消毒液、加湿器、空気清浄器が置かれ、利用者への配慮を感じます。又クリスマスツリーの飾りつけがされ、季節感を感じました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の食堂テーブル位置の配慮、畳では何時でも横になれる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。	利用者は、思い思いに部屋に自分の馴染みの物（寝具、箪笥、仏壇、写真、人形、絵画など）を持ち込み、居心地よく過ごしています。又ナースコール器があり、緊急時への利用者への配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して暮らしていけるよう付かず離れず見守りをし、混乱や失敗を防ぐ為に出来ない事はお手伝いをしている。		